

『主の恵みの年を告げる』 (ルカの福音書 4章 16-22節) 2023.12.10.

<はじめに> 「もろびとこぞりて」はクリスマスソングの代表の一つ、1番はほぼ歌える方が多いでしょう。しかし、その歌詞は意味不明で、「シュハキマセリ」を呪文と思っている人もあると聞きます。文語調で古語を交えた歌詞が理解を困難にしているようですが、認知度は高い不思議な曲です。

I 二つの詩とメロディ

①インマヌエル讃美歌の2曲

インマヌエル讃美歌には「諸人こぞりて」(406)と「民みな喜べ」(407)が収録されています。原詩は“Hark the glad sound!”(406) “Joy to the world”(407)と異なり、曲はほぼ同じです。しかし一般では、「諸人こぞりて」を“Joy to the world”として多く紹介されています。

②詩と曲の組み合わせ

賛美歌は詩と曲(TUNE)各々に名が付けられ、同詩を別曲で歌われることがあります。「諸人こぞりて」の曲名 ANTIOCH ですが、“Hark the glad sound!”はイ讃 29 のメロディ: 曲名 RICHMOND(CHESTERFIELD)や BRISTOL でも歌われます。(讃美歌の巻末索引参照)。

II 歌詞の内容

①“Hark the glad sound!”

長く約束された救い主がこの世に来られる時、彼によって成し遂げられる束縛からの解放、開眼と照明、癒しと回復が描かれ、この御方を迎えるために、すべての人は心に王座を整えて、賛美をもって迎えるように招きます。

②“Joy to the world”

救い主が来られるとき、自然界も人々も喜び歌い出します。救い主が治められるとき、もはや罪や悲しみ、呪いは消え失せて、神の義と愛による祝福が地をおおうからです。この救い主が来られるにあたり、すべての人に迎える用意をするようにと呼び掛けます。

③背後にある聖句

平和の君なる(イザヤ 9:6)救い主がこの世に来られる(ヨハネ 1:9)とき、イザヤ 61:1-2 の預言が実現します。イエスはナザレの会堂でこの箇所を読み上げて、その成就を宣言されました(ルカ 4:17-21)。“Joy to the world”は詩篇 98 の主の再臨をも意識しています。

III このことばが実現した(ルカ 4:16-22)

①救い主が遣わされた(18-19)

救い主は良い知らせ(福音)の実現のために遣わされました。その対象は、貧しい人、捕らわれた人、目の見えない人、虐げられている人です。救いは心霊的な面に止まらず、社会での実際面にまで及びます。キリストとその弟子たちは今もそのために働いています。

②主の恵みの年(19)

イエスが救い主として来られたクリスマスは「主の恵みの年」の到来です。しかし、ルカ 4:18-19 とイザヤ 61:1-2 を比べると、「われらの神の復讐の日」が外されています。イザヤの預言は、クリスマスとともに、やがて再び来られるイエスの来臨も指しているからです。

③「今日、この聖書のことばが実現しました」(21)

クリスマスに救い主イエスは誕生され、私たちの間で、私たちと同じように生活されました。その生涯の終わりに、私たちの罪の贖いのために十字架と復活をくぐられました。永遠の神は時空を超えて働かれ、ご自分のことばと計画を確実に実現されます。

<おわりに> 神の世界においては、古の預言は後の実現と表裏一体で不可分です。神のことばは必ず実現します。だから、すべての人は救い主を喜び祝い、私たちの心と生活の中にこの御方のために王座を整えて、喜び迎えようではありませんか。(H.M.)